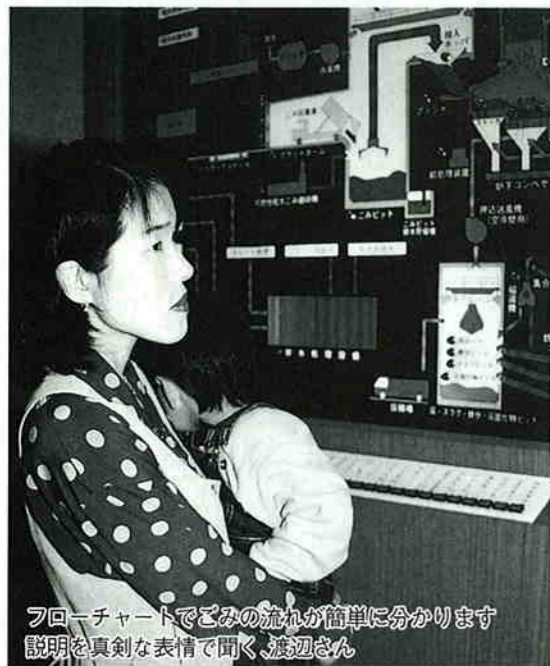


ごみは分別、これが一番大切です
私たちの暮らしのなかで
なくてはならない施設ですね



フローチャートでゴミの流れが簡単に分かります
説明を真剣な表情で聞く、渡辺さん

狭山市で一年間に集められるごみは5万2千77t、一人あたり、約319kgです。お相撲さんの体重が約130kgとすると、一人が一年間に出すごみの重さは、お相撲さん約2.5人分もの重さになります。私は、以前



もやごみのピットをのぞき込み、その量の多さにおどろきました

REPORTER'S EYE



【リポーター】
渡辺 和子さん（下奥富）

リポーターズアイでは、行政のしくみや
課題性のあることから、市内のいろいろな
施設などを、市民のかたがレポートします。

「ごみ」と思っていたものが
実は資源だったります

私たちがふだん「ごみ」として出しているものは、生活に密着したものでばかりですが、出すときに「これはもやさないごみかな？それともビン・カンかしら。」などと迷うことがあるのではないのでしょうか。そんなときは、各家庭に配布されている「生活ごみの分け方出し方」を見ながら、できるだけ正しい分別を心がけています。そこで今回は、奥富にある清掃センターで稲垣所長さんのお話をお伺いしました。

ごみには一般廃棄物と、産業廃棄物の2種類があります。産業廃棄物とは、事業所などで出る、法令で定められている廃棄物です。そして一般廃棄物は、もやさないごみ・もやさないごみ・粗大ごみ・有害ごみ・資源ごみに分けられます。これらは普段家庭から出るごみで、皆さんもよくご存じだと思えますが、中でも分かりにくいのが、有害ごみではないかと思えます。これは、電池や蛍光灯管、水銀体温計、温度計などのことです。なぜ、これらはもやさないごみではなく、有害ごみとして収集するかと言うと、これらの中には水銀などが含まれていて、割ったり壊したりするとそれが空気中に飛び散り人体に有害なのだそうなんです。もやさないごみの収集時、ごみ袋の中に蛍光灯管が多く出されている場合がありますので、購入時の箱に入れて、決められたもやさないごみのわきに出してほしいとのことでした。



清掃センター（上奥富899、☎53-2831）

紙おむつはもやせないという話を本で読み、以来子どもには布おむつを使っていますが、「1軒でこんなに減るのか。」とびっくりするほど、ごみが減りました。お母さんが母親学級などで、保育のことだけでなく、こういった「子どもがいる生活の知識」も勉強できるといいですね。

狭山市では、昨年の10月から透明・半透明のごみ袋による収集を開始し、実施率がほぼ100%となっていますが、これは近隣市と比較しても高い値で、市民の皆さんの意識が高いことがうかがえます。稲垣所長さんは、「市民の皆さんの日頃のご協力が大変ありがたいです。」とおっしゃっていました。これからは、施設の爆発事故や職員のかたの怪我等を防ぐためにも、一人ひとりが注意してごみを扱わなければいけないですね。今回、ごみ処理を目の当たりにし、改めてその業務の大変さ、大切さを理解しました。皆さんも機会があったらぜひ、施設を見学してみたいかがでしようか。



ノーマライゼーションとは
だれもがうまく調和すること
「ハーモニー」だと思うんです

大野 博さん (カーボランティア)



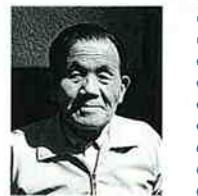
大野さんが企画した
今年のお花見
稲荷山公園の桜を思う存分満喫しました

「障害を持つかたもお年寄りも、子ども外に出ることが必要です。たくさんの方とふれあい、暮らしの中でだれもが自然体でお互いを助け合える、そんな社会を作りたいですね。」と話す大野さんは、障害のあるかたのために車を走らせるカーボランティアです。大野さんは、40年のサラリーマン生活と少年野球チームのお手伝いをやめたのをきっかけに、「これからは障害をもったかたがたのために少しでもお役に立てたら。」との思いで社会福祉協議会のボランティアセンターに登録しました。

それが私の場合はカーボランティアだったんです。そしてそれは、私自身の生きがいや夢を実現させるという欲求でもあったんですね。と楽しそうに笑いました。いつもできるだけお互いの意思を通じ合わせ、気持ちのよい、喜んでもらえるサービスをしたかと思っているようで、「医療機関や福祉施設の利用のほかに、たまには行楽地などへも行つて、皆さんによい思い出をたくさん作って欲しいですね。」と大野さん。そのために、計画・実施・結果考察・反省という手順で物事を進め、改善につなげていきます。そんな大野さんが最も大切にしているのは、輪（和）を広げることです。ボランティアグループ・入間川九十会を結成し、仲間づくりに一生懸命な毎日です。

また、障害を持つかたを対象に、桜や花菖蒲の季節にはお花見を、紅葉の季節には紅葉狩りを企画し、実施しています。「参加した人からお礼の手紙などをもらったのが一番うれしいです。やつてよかった、と思える瞬間というのは、お連れして喜んでもらえたり、今度はこんな所に行つてみたい、という感想をいただいたときですね。それが励みになるんです。」とこやかに答えてくれました。

私の意見



不法投棄監視員
大野高次さん
(入間川在住)

「ごみの不法投棄について」
皆さんは、不法投棄監視員が活動していることをご存じですか。テレビや新聞などで報道されているとおり全国各地に行つてもたくさんのごみが捨てられています。狭山市でも、特に山林や河川敷などにひどいところがあります。古来からの日本人のもっとも大切な道徳的精神を忘れ、自由をはき違えていきます。ごみは回収日には必ず出して、不法投棄しないでください。狭山が美しい市になるようにしようではありませんか。例えば、八王子の高尾山は、シーズンには何万人というほど登山しますが、ごみを捨てる人はおりません。高尾の広範な山が美しい場所になっています。互いに注意し合つて行きましょう。そして、埼玉、いや全国に誇れる美しい狭山にしようではありませんか。一日も早く監視制度がなくともよい市になることを祈つて、皆さんにご協力ご支援をお願いいたします。